

中海の白鳥について

(状況報告とお願い)

米子野鳥保護の会会長 長尾俊郎

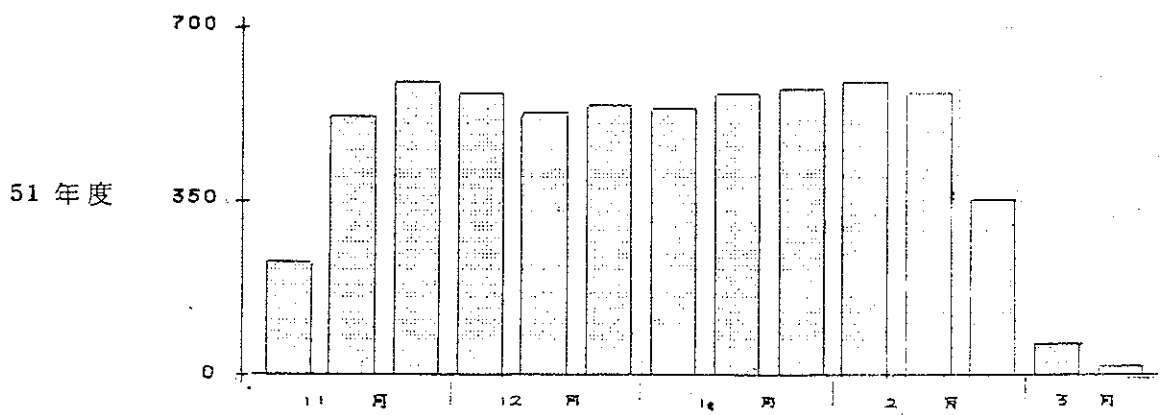
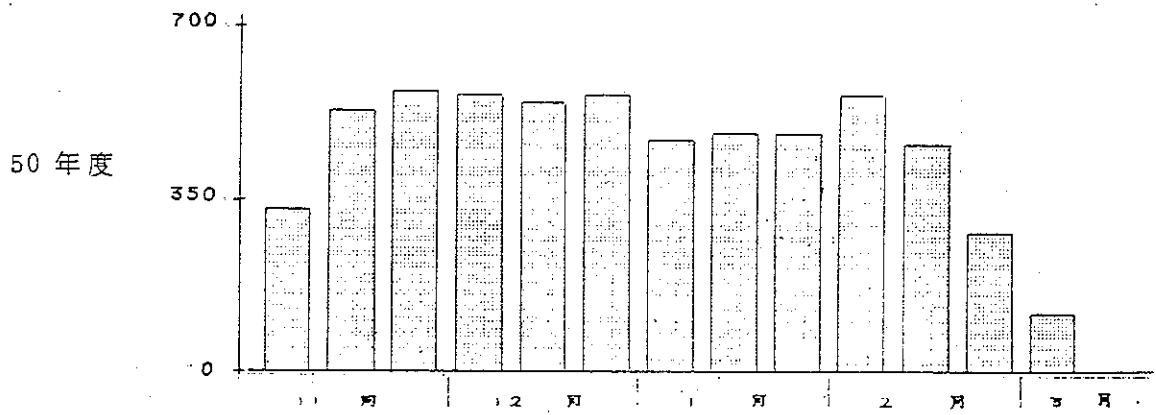
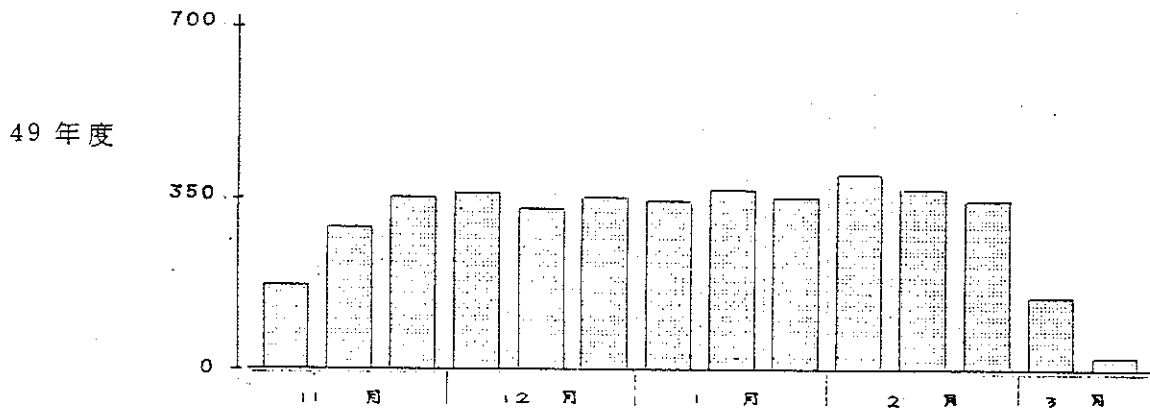
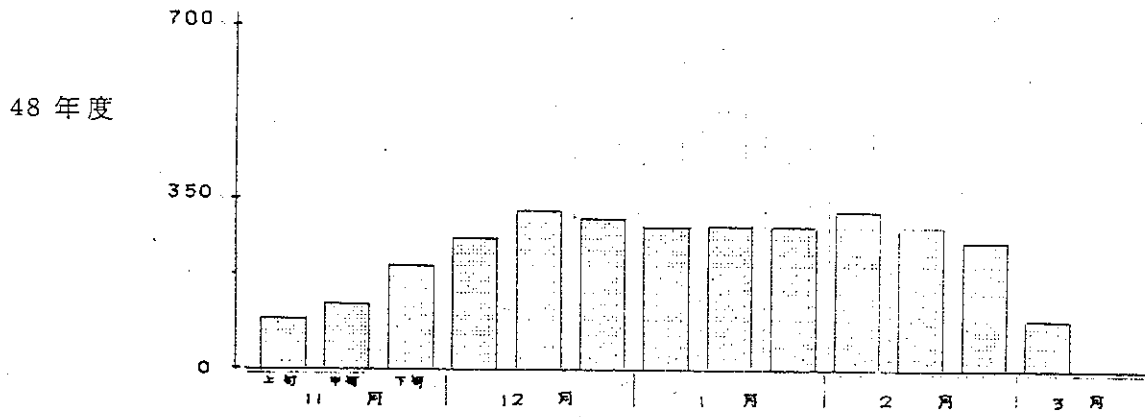
中海は、日本の白鳥の集団渡米地としては南限に位置しておりますが、この渡米地が現在、重大な危機に直面しております。中海は、島根県と鳥取県に囲まれた 9,748 ヘクタールの海水面ですが、このうち昭和 38 年より国の干拓事業により干拓が進められており、昭和 59 年には 2,542 ヘクタールの干拓が完了し、同時に淡水化されることが決っております。また、昭和 49 年より中海の 8,462 ヘクタールが国設鳥獣保護区となっており、この保護区設定以後に確認された鳥は 166 種(別紙中海鳥類目録)にもおよんでいます。このうち白鳥(コハクチョウが 98 %以上占める)の定期的なカウントは、昭和 40 年より始められ現在まで続けられていますので、その渡来数の推移が明確にわかっております。(別紙白鳥渡来数推移表)それによりますと、昭和 52 年度にピークに達した後、急激に減少しており、白鳥海岸として親しまれております意東海岸(島根県八束郡東出雲町下意東=昭和 40 年より餌付け開始)への飛来数は昨年 12 月以降とうとう零になりました。急激な減少について様々な原因が考えられますが、最大の原因は安全圏(ネグラ)が無くなったこととあります。白鳥海岸に飛来していたグループは、西側約 2 km(別紙地図参照)にあります揖屋工区を安全圏としておりましたが、この干拓地の干陸化に伴い、白鳥が同地に寄りつけなくなったことにより白鳥海岸を放棄したものと考えられます。別紙白鳥海岸における泊鳥の記

録によりますと、揖屋工区の干陸化が進むにつれて白鳥海岸での泊鳥の羽数と回数が増加していますが、白鳥が水面に浮かびながら夜を明かすということは異常な状態であり、渡来地への愛着度が高いことを示していると同時に安全圏が奪われつつあることを物語っています。

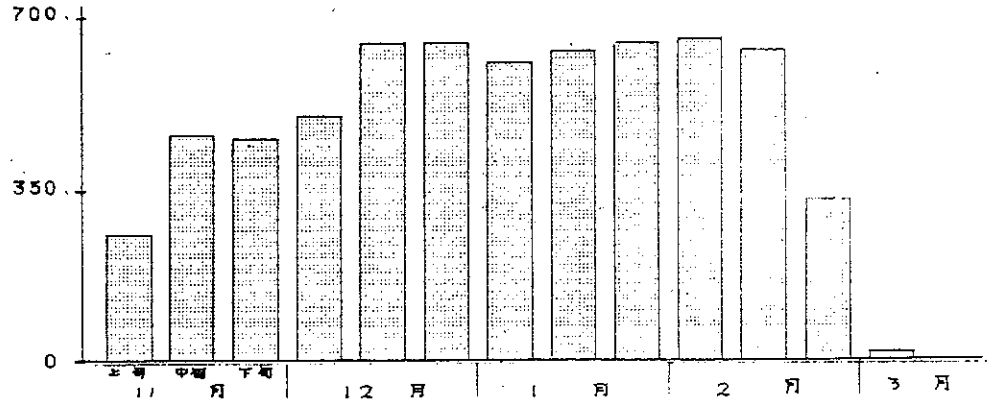
今年度中海に渡来した約 250 羽の白鳥は、すべて鳥取県側の干拓地(彦名工区、弓浜工区)を安全圏として生息しておりますが、この 2ヶ所の干拓地も干拓事業が進行中であり、2年以内には確実に干陸化されてしまい、揖屋工区と同じ運命をたどることは明らかです。白鳥の安全圏を確保するため、昭和 52 年頃より島根県鳥獣保護員の方々が現在に至るまで再三にわたって島根県当局に対して交渉を重ねられたにもかかわらず何等の対策もなされないまま現在に至っております。本会では、これ以上静観することは、中海から白鳥を追い出すことになるとの判断の元に、中海に渡来する白鳥のすべてが鳥取県側の干拓地を安全圏としたことを機に保護運動を開始することと致しました。安全圏の適地として様々なデータから判断して彦名工区と決定し、総面積 184 ヘクタールのうち約 30 ヘクタール(彦名工区の約 16%・中海全干拓地の約 1.2%)を中海に渡来する白鳥をはじめとした水鳥のための安全圏として永久的に残していただくよう関係当局に働きかけていきますので、以上の状況をご理解いただき、ご指導ご協力いただきますようお願い申し上げます。

昭和 56 年 3 月 5 日

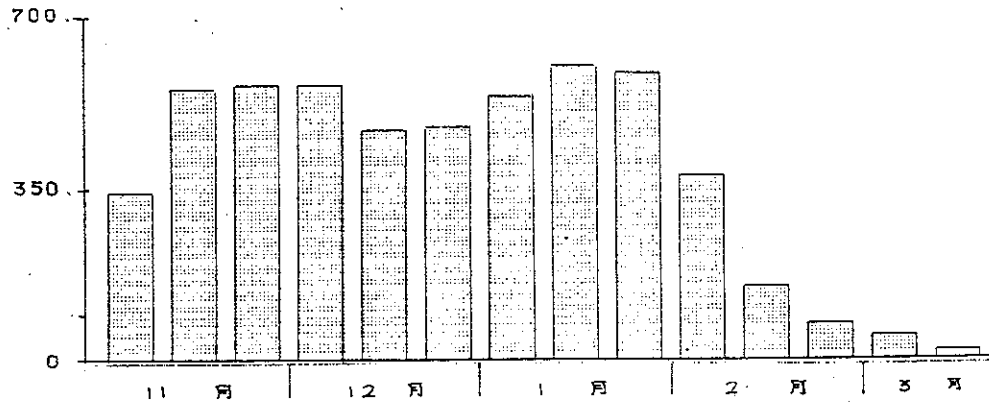
白鳥海岸へ飛来した白鳥の月別推移グラフ



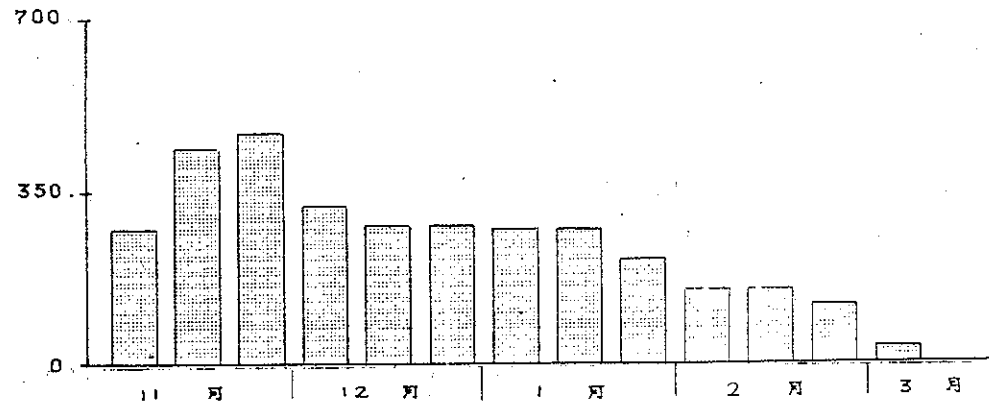
52年度



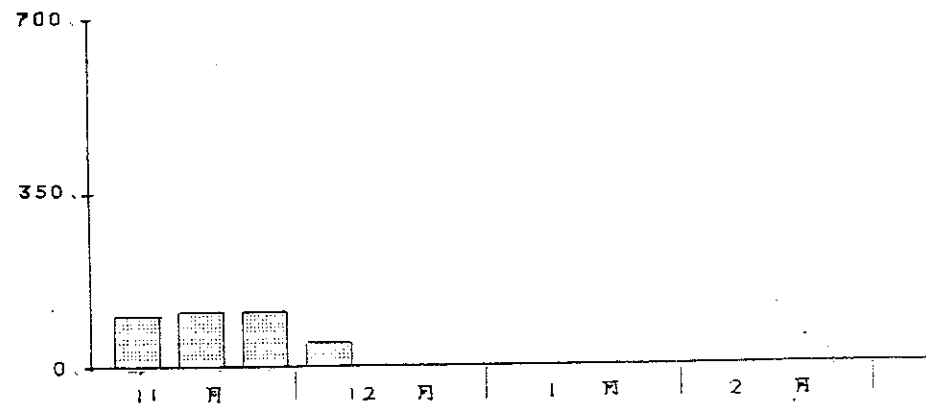
53年度



54年度



55年度



中海白鳥渡来数推移表

年度	白鳥海岸最大羽数	彦名干拓最大羽数	中海全域最大羽数	その他	備考
40	80				
41	150				
42	240				
43	190				
44	263				
45	219				
46	313				
47	310				
48	325			安来工区 23	
49	388	7	388	安来工区 52	
50	556	143	604		石川県河北潟がゼロになる。
51	578	99	640	安来工区 31 弓浜工区 77	揖屋工区の干陸化が強まり分散が始まる。
52	635	123	697	安来工区 0 弓浜工区 45	分散が強まり中海全域に分散。
53	588	133	605		更に分散・揖屋工区を放棄、減少始まる。
54	423	147	423	弓浜工区 46 飯梨川 133	更に減少が強まり、白鳥海岸の飛来激減。
55	11/20 181	2/6 191	2/11 254	飯梨川 0	12/3以降白鳥海岸の飛来0となる。

※ 52.12.18に735羽の数字が白鳥日誌に見られるが、前後の記録から判断するにダブってカウントされているように思われる。

白鳥海岸における泊鳥の記録

(詳細については会報45を参照のこと。)

S.50年2月

49年度

日	天候	羽数	記
1	曇後晴, 北西風	325	朝8時, 大根島入江方面より銃声数発聞こえる。
2	小雨, 北東風	351	12時半, 風強く飛立つもの多し, 揖屋工区よりのユーターン
3	曇後晴, 北東風	0	セスナ機飛びそのため白鳥来ず
4	曇雨, 南東風	320	揖屋漁業者と談合巡視
5	曇雨, 北西風	180	白鳥に異変あるか, 51羽が意東海岸で宿泊(揖屋湾では毎日泊)
6	雨, 南東風	0	揖屋湾めぐら調査, 15羽意東海岸沖にて泊る
7	小雨後曇	353	病鳥発見

S.51年1月

(50年度)

日	羽数	成	幼	天候	風力	気温	水温	記	事
26	420	258	162	曇, 北西風	1	1	4	泊鳥多数	
27	450	370	180	晴後曇, 北西風	3-4	2	4	千拓地揖屋工区結永, 前日泊鳥多数はこの為か?	
28	470	382	188	晴, 北東風	0-1	2	5		
29	421	284	137	晴後曇	2-3	4	5	NHK取材	
30	392	282	110	曇, 北西風強	0-1	4	5		
31	470	282	188	晴後曇	2-3	4	5	泊鳥約200羽	

S.51年11月

(51年度)

3	63	51	12	晴	0	9	15	オオハクチョウ(成長7羽, 幼鳥5羽)
4	121	113	18	晴	0	12	15	昨夜, 揖屋工区に58羽飛来, 15時, 北西風5となり飛立つ オオハクチョウ(成長9羽, 幼鳥3羽), 揖屋工区巡視, めぐら確認
5				小雨, 北東風	7	13	10	浪高く着水不可, 恐らく揖屋工区へ
6	185	152	33	晴, 南東風	8	13	14	オオハクチョウ12羽
7	171	124	47	晴	0	7	14	オオハクチョウ12羽, 日本白鳥の会定点観測日
8	205	145	60	晴	0	8	15	15時, 北西風強く飛立つ
9	225	172	53	曇時々晴	1-2	11	15	
10	241	195	46	晴	0-1	11	12	朝曇, 着水時間遅し
11	275	118	57	時々雨, 北西風	8	16	15	昨夜, 白鳥海岸は泊鳥あり

S.51年12月

1	447	354	93	曇	0-1	4	8	
2	505	340	165	晴, 風	0	4	9	
3	419	293	126	晴時々曇	0	7	10	白鳥海岸に泊鳥多し
4	407	306	121	晴	0	3	9	同上
5	560	397	163	曇, 北東風	7-8	11	10	定点観測日, 10時風強く飛立つ, 午後の給餌不能, 泊鳥多し, 彦名千拓地99羽(成長65羽, 幼鳥34羽)の情報入る
6	523	326	167	曇, 北東風強	8-9	11	10	朝の給餌不能, 管理病鳥元気
7	521	375	156	晴	0	7	8	月明りに夜間の採餌よく見える
8	427	299	128	小雨	4-5	6	9	

12	423	296	127	晴	0 - 1	3	7	人出多し, 本年度の最高
13	492	328	164	晴	0	3	8	夜間の採餌しきり, 泊鳥多し
14	342	241	101	小雨後晴	0 - 1	4	8	中海の各地, 本庄, 手角, 大根島, 経島より数羽の白鳥分散との通知
19	480	336	144	晴	2 - 3	2	4	人出多し
20	450	295	135	晴		4	8	泊鳥あり, 黄砂現象あり
21	343	240	103	晴, 西風	0 - 1	6	9	黄砂現象

S.52年1月

1	480	336	144	粉雪, 北西風強	9	-9	-2	11時より漸次飛立つ
2	435	319	116	時々雪	0	0	3	泊鳥多し, カメラマン多し
3	461	323	138	雪	0	-3	-4	80%は東方荒島方面から飛来, 恐らく彦名工区より
4	424	297	127	曇時々晴	4 - 5	-1	-1	50%は荒島方面より, 50%は揖屋工区より飛来, 前者は彦名干拓地をめぐらしたものとされる) 9時より風, 白鳥静か
5	434	323	111	曇時々雪	0 - 1	-2	0	泊鳥160羽, 揖屋工区よりは飛来鳥なし。病鳥が川尻方面にいるとの通知あり, 荒島方面を巡視したが現当らず
6	431	308	131	曇時々雪	1 - 2	-1	3	山階鳥研, 阿部・三木両氏来訪
7	405	285	120	晴, 北東風	0 - 1	-2	-3	
8	425	305	120	晴	0	2	5	泊鳥あり, 月夜の採餌さかん, コンクリート・ミキサー車の往来がはげしい為, 給餌場に近寄れず沖に離れる
9	524	368	156		0 - 1	1	4	泊鳥多数, 月夜の採餌さかん, 白鳥海岸以外の中海で, 弓浜干拓 77羽 (成鳥53羽, 幼鳥24羽), 島田干拓31羽 (成鳥22羽, 幼鳥9羽) 飯梨川口5羽 (成鳥4羽, 幼鳥1羽), 安来モーター付近, 成鳥7羽 報告, 合計640羽中海で発見
10	450	315	135	雨後曇	0 - 1	-4	-5	泊鳥300羽
11	558	400	158	晴後曇	2 - 3	-1	4	泊鳥300羽以上
12	505	370	135	曇時々雪	0 - 1	1	4	

S.52年2月

1	540	378	162	雪	2 - 5	0	5	積雪10cm, 泊鳥約150羽
2	451	337	114			1	4	泊鳥あり
3	580	406	174	雪	1 - 2	1	2	積雪11cm, 恒松知事来訪
4	420	294	126	雪	3 - 4	4	4	積雪20cm, 泊鳥あり, 時々月明りあり
5	580	406	174	雪, 北西風	2 - 3	-1	0	積雪11cm, 泊鳥あり, 朝採餌出来ず
6	480	336	144	雪	0 - 1	-1	2	積雪33cm, 泊鳥あり, 海岸の干潮甚だしく干潟表れ白鳥多数集る
7	546	438	108	小雪後晴, 北東風	1 - 3	4	5	泊鳥250羽, 他は飛来
8	535	374	161		0	-2	-3	月明りにて 泊鳥310羽 数える
9	520	364	156	曇, 北東風	0 - 1	0	4	曉の月明りの為か接岸早し, 泊鳥350羽
10	480	336	144	晴, 北西風強	0 - 1	1	5	泊鳥多し

51
年
度

本季の特徴は、揖屋、島田両工区の氷切りにより水面が減少したが、若干の水溝が残っていたので、多数のねぐらにはならなかったが、少数のねぐらとなった。氷切りの影響としては、彦名、弓浜両工区の水面のところに分散したのと、白鳥海岸で波浪の激しくない時には、泊鳥の日数及び数が多かった。

白鳥日誌より抜粋

52年11月

(昭和52年度)

日	白羽数	成	幼	天候	風力	気温	水温	記
23	434	289	145	晴後曇	2-3	7	11	第6陣飛来, 全羽数泊鳥となる, 農林事務所山根主幹調査
24	390	259	136	晴	0	6	9	
25	415	219	196	晴時々曇	0-1	8	11	泊鳥多数
26	430	299	131	曇	1-2	9	12	泊鳥あり
27	440	281	159	晴	0-1	7	11	給餌につかず, 泊鳥多数約400羽
28	420	300	120	曇	3-4	16	13	泊鳥あり
29	370	250	120	晴後曇	0-1	5	11	風にて分散
30	390	254	136	晴	0-1	6	11	

52年12月

16	630	410	220	晴	0	10	10	島根県調査日, 米子港松島コハクチュウ幼鳥赤色バンド038C確認 大橋川8羽, 米子松島45羽, 中海とで合計683羽, 泊鳥あり	
17	320	208	112	雨後曇	3-5	7	14	飛来少し	
18	620	403	217	曇	1-3	9	11	彦名干拓地100羽, 弓浜干拓地45羽, 大橋川20羽, 中海とで合計 785羽, 人出多し	
19	350	228	122	曇, 北西風			10	1	午後2時風おさまり, 白鳥飛来数540羽となる
20	520	338	182	晴後曇	0	6	7	7	全鳥沖合にて泊る, 斐川農協へ餌とり
21	530	345	185	晴	4-5	8	9	9	午後2時, 風強く順次飛立つ, 日本白鳥の会事務局長本田清氏来る
22	522	340	182	晴後雨	1-3	5	3	3	標識鳥038Cを再確認
23	612	398	214	晴	0-1	5	8	8	泊鳥あり
24	630	410	220	晴後雨	0-1	8	9	9	月明りにて採餌, 300羽程泊鳥あり, 廃油流出, 白鳥接岸せず
25	553	360	193	晴時々雨, 北西風強	1-3				午前10時風強く, 順次飛立つ

12/25 中海, 穴道湖 定時点観測 東出雲町白鳥を守る会, 中海水鳥を愛する会
 米子市彦名干拓地 118羽(成鳥78羽, 幼鳥40羽)
 安来市島田干拓地 1羽(幼鳥1羽)
 東出雲町白鳥海岸 553羽(成鳥360羽, 幼鳥193羽)
 松江市三月池 5羽(成鳥2羽, 幼鳥3羽)

53年1月

11	519	338	181	晴	0	4	3	3	泊鳥400羽着水早し, 県当局者と松江プロイラー進出対策協議す
12	520	338	182	晴	0-1	10	9	9	平田小, 高松小, 穴道小へ餌取り
13	450	293	157	晴	0-	8	5	5	泊鳥多数, 町役場にてプロイラー進出反対協議会あり
14	520	338	182	晴	0	13	8	8	泊鳥全羽数, 保護区内飯梨川方面にて銃声
15	534	348	186	晴	0-1	10	13	13	泊鳥全羽数, 一つ石にモーターボートを入れた為, 白鳥着水せず
16	0	0	0	雨, 北東風強	4-5	4	5	5	着水なし, 給餌不能
17	370			曇, 北東風	5-7	10	9	9	朝風強く着水なし, 午後2時着水, 給餌
18	605	394	211	晴時々曇	0-1	5	6	6	風凪, 飛来約600羽
19	620	403	217	小雪	5-6	6	6	6	
20	557	358	199	晴	0	6	7	7	島大付属幼稚園児見物
21	476	310	166	小雪, 北西風強	3-4	6	6	6	荒天にて接岸不能, 順次飛去
22	620	491	217	雪, 北西風	5-6	4	6	6	雪にて飛来遅し

23	630	410	220	晴	0-1	3	4	泊鳥多数
24	635	413	222	小雨	0-1	8	6	着水遅し
25	630	410	220	晴	1-2	4	5	着水早し
26	545	355	190	曇	0-1	5	7	泊鳥多数, 斐川農協へ餌取り

◎今後、餌の出荷状況

一般	265 件	4,935 kg
団体	33 件	12,128 kg
学校	142 件	12,365 kg
計	440 件	29,428 kg

(注) 初飛来、昭和52年10月20日、前年より2日遅し、今季は餌付に日時を要し、16日後の11月6日に初めて餌に付く。

11/6 243羽の内オオハクチョウ8羽を認む。

11/19 赤色台の009Cの首標を認む。

12/16 赤色台の038Cの首標を認む。

白鳥海岸にて最多数を認めたのは、

12/6 630羽 12/24 630羽

1/24 635羽 2/8 638羽

12/25の中海の定時観測では、697羽

今季では揖屋工区、島田工区の干陸の為、ねぐらを失い、彦名工区に行った数が多い。夜のねぐらは白鳥海岸にて泊鳥の数及び日数が多かった。

帰北は2/15に始まり、数日、数回にわたり、数梯団にて出発し、前年に比べて早く3/6に帰北が終った。

◎傷病鳥の報告

種別	個所	治療後の処置
オオハク鳥	右上腰部複雑骨折	傷を治して太田市へ
コハク鳥幼鳥	頸動脈切断	死亡し、剥製へ
コハク鳥亜成鳥	原因不明(死体として漂着)	山口大獣医学部へ研究として送る。

初飛来月日	初飛来羽数	このシーズン最大羽数	帰北開始月日	帰北完了月日	備考
S 40. 12. 28	4	80 12. 31 日	S 41. 2. 28	S 41. 2. 28	一せい帰北
S 41. 10. 27	2	150 2. 6 日	S 42. 3. 1	S 42. 3. 12	
S 42. 10. 16	2	240 1. 17 日	S 43. 2. 28	S 43. 3. 15	
S 43. 10. 27	4	190 2. 9 日	S 44. 2. 28	S 44. 3. 16	
S 44. 10. 20	6	263 1. 8 日	S 45. 3. 1	S 45. 3. 18	
S 45. 10. 20	4	219 2. 22 日	S 46. 2. 28	S 46. 3. 8	
S 46. 10. 27	8	313 1. 22 日	S 47. 2. 28	S 47. 3. 17	
S 47. 10. 11	4	310 1. 4 日	S 48. 2. 27	S 48. 3. 8	
S 48. 10. 1	1	325 2. 4 日	S 49. 2. 23	S 49. 3. 9	
S 49. 10. 12	2	388 11. 28 日	S 50. 2. 25	S 50. 3. 11	
S 50. 10. 18	5	556 11. 26 日	S 51. 2. 24	S 51. 3. 2	
S 52. 10. 20	2	578 12. 11 日	S 52. 3. 2	S 52. 3. 11	
S	11	635 1. 24 日	S 53. 2. 17	S 53. 3. 7	

羽数は下意東白鳥海岸においての調査である。

中海鳥獣保護 (国設) 鳥類目録

(1974.11.1 ~ 1981.2.14)

米子野鳥保護の会

番号	種名	備考	番号	種名	備考
1	アビ		43	スジロワシ	安来・芳名・揖屋工区
2	カイツブリ		44	オズワシ	芳名工区
3	ハジロカイツブリ		45	オヌタカ	
4	ミミカイツブリ		46	ケアシノスリ	揖屋工区
5	アカエリカイツブリ		47	ノスリ	
6	カンムリカイツブリ		48	サシバ	
7	ウミウ		49	ハイロケウレ	芳名工区
8	ヨシゴイ		50	ケウレ	
9	ゴイサギ		51	ハマフサ	
10	アマサギ		52	ケウケンボウ	
11	タイサギ		53	キシ	
12	ケウサギ		54	ナベツル	芳名工区
13	コサギ		55	ヒクイナ	
14	アオサギ		56	バン	
15	クロトキ	安来工区	57	タマシギ	
16	マカン	芳名工区	58	ミヤコドリ	安来工区
17	ヒシクイ	芳名工区・意東海岸	59	コウドリ	
18	オスハフケウ		60	イカルケドリ	
19	コハフケウ		61	シロケドリ	
20	ツツシカモ	芳名工区・弓浜工区	62	メタイケドリ	
21	オシドリ		63	ムナクロ	
22	マガモ		64	タイゼン	
23	カルカモ		65	ケリ	揖屋工区
24	コカモ		66	クケリ	
25	トモエカモ		67	キョウジョシギ	
26	ヨシカモ		68	トウネン	
27	オカヨシカモ		69	ヒバリシギ	
28	ヒドリカモ		70	オジロトウネン	揖屋工区・飯梨川
29	オナカカモ		71	ウスラシギ	
30	シマアジ		72	ハマシギ	
31	ハンビロカモ		73	サルハマシギ	飯梨川
32	ホシハジロ		74	コオバシギ	飯梨川
33	キンフロハジロ		75	オバシギ	
34	スズカモ		76	ミユビシギ	
35	フロカモ		77	ハクシギ	揖屋工区・飯梨川
36	ヒロドキンフロ		78	エリマキシギ	揖屋工区・飯梨川
37	オスジロカモ		79	キリアイ	飯梨川
38	ミコアイサ		80	ツルシギ	
39	シミアイサ		81	アカアシシギ	
40	カワアイサ		82	コアカアシシギ	芳名工区
41	ミサゴ		83	アオアシシギ	
42	トビ		84	フサシギ	

番号	種名	備考	番号	種名	備考
85	タカアシギ		129	ルリヒツギ	
86	キアシギ		130	イソヒヨドリ	
87	イソシギ		131	トラツグミ	
88	ソリハシシギ		132	シロハラ	
89	オアロシギ		133	ツグミ	
90	オオソリハシシギ		134	ウグイス	
91	タイシャクシギ		135	コヨシキリ	
92	ボウロフシギ		136	オオヨシキリ	
93	チュウシャクシギ		137	セントイムシクイ	
94	タシギ		138	セッカ	
95	セイタカシギ		139	キビツギ	
96	アカエリヒレアシギ		140	オグルリ	
97	ツバメケドリ	飯梨川・芳名工区	141	ヒガラ	
98	ユリカモメ		142	ヤマガラ	
99	セアロカモメ		143	シジュウカラ	
100	オオセアロカモメ		144	エナカ	
101	カモメ		145	メジロ	
102	ウミネコ		146	ホオジロ	
103	アジサシ		147	カシラヅカ	
104	コアジサシ		148	ミヤマホオジロ	
105	ハジロクロウアジサシ	飯梨川	149	アオジ	
106	キジバト		150	オオジュリン	
107	アオバト		151	ユキボオジロ	芳名工区・芳名工区
108	カッコウ		152	アトリ	
109	ホトトギス		153	カワラヒワ	
110	アオバスク		154	マヒワ	
111	ヨタカ		155	ベニヒワ	
112	アマツバメ		156	ウソ	
113	ヤマセミ		157	コイカル	下巻東
114	カワセミ		158	イカル	
115	アオゲラ		159	シメ	
116	ツバメ		160	スズメ	
117	コシアカツバメ		161	ムクドリ	
118	イワツバメ		162	ミヤマカラス	芳名工区
119	ハクセキレイ	ホウシロハクセキレイを指す	163	ハシボソガラス	
120	セアロセキレイ		164	ハシブトガラス	
121	タヒバリ		165	コゲラ	
122	ムネアカタヒバリ		166	フクロウ	
123	ヒヨドリ				
124	モズ				
125	キレンジャク				
126	ヒレンジャク				
127	ジョウビツギ				
128	ノビツギ				

中海干拓地周边略图

